

これからの中野の教育検討会議の検討状況

1 教育を取り巻く状況

I 中野区の状況

1. 区立小中学校の現状と課題

【新学習指導要領への対応】

- 新学習指導要領対応のため、授業時数の増加への対応、小学校への外国語活動の円滑な導入（カリキュラムモデルの充実等）、理科、算数・数学の授業内容増加への対応など、確かな学力を育む移行期の充実が課題である。
- 新学習指導要領を踏まえ、学力向上のために教員の人材確保、研修体系の確立、教員の増配置などが必要な状況になっている。

【教員の指導力】

- 平成 21 年 4 月までに全小・中学校で校内 LAN や周辺機器が導入され、ICT を活用した教育が推進できる環境が整備された。今後は、よりよい教育コンテンツを開拓するとともに、全教員が ICT を効果的に活用した指導が実施できるようにする必要がある。

【体力向上】

- 体力向上プログラムを策定・実施し、体力の向上は図られてきているが、体力テストの結果では、ボール投げや握力など、特定の種目の平均値が低いという傾向がある。

【地域連携】

- 各学校において地域との連携や学習支援ボランティアの活用などに取り組んでいるが、地域人材の発掘などの課題がある。また、区全体として新しい地域連携のあり方やしくみの構築などについての検討がなされていない。
- 区内全校で学校ごとにその学校の主体性や特色を生かしながら、研究に取り組んでいる。
- 家庭、地域、学校が連携し、子どもに多様な体験、交流及び仲間づくりや子どもの健全な育成を図るため、キッズプラザの全小学校への導入を子ども家庭部が進めている。

【特別支援教育】

- 特別な支援を必要とする子どもたちに対して、一貫した支援を行っていくため、福祉、医療等、関係機関との連携を図りながら特別支援教育を推進するための体制整備を行うとともに、異校種間の連携強化や特別支援学級の配置・増設等の検討が必要である。
- 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援をしていく必要がある。
- 現在、教育センター内の教育相談室では全般的な教育相談を実施し、南北教育相談室では、主に不登校に関する教育相談と適応指導を実施しているが、特別支援教育が開始されたことなどに伴い、相談件数が増加している。

【学校規模等】

- 近年の少子化の影響や私立小中学校への進学などにより、区立小中学校への新入生が減少傾向にあり、学校が小規模化している。

- 小中学校入学時に、区立学校以外（国立・私立等）に進学する子どもが小学校で約1割、中学校で約3割いることから、魅力ある学校づくりが公立学校に求められている。
- 個別に支援の必要な子どもたちが成長し、自立する過程を一貫して支援するためのしくみや異校種の連携強化の大切さが認識されてきている。

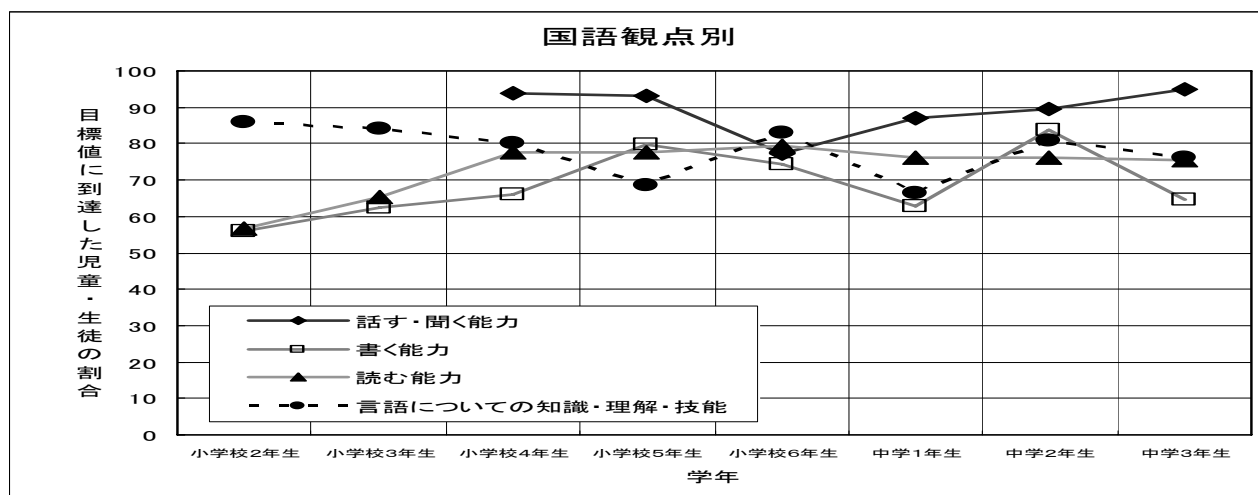
2. 子どもたちの現状と課題

【学力】

＜学力にかかわる調査結果（平成21年度）から＞

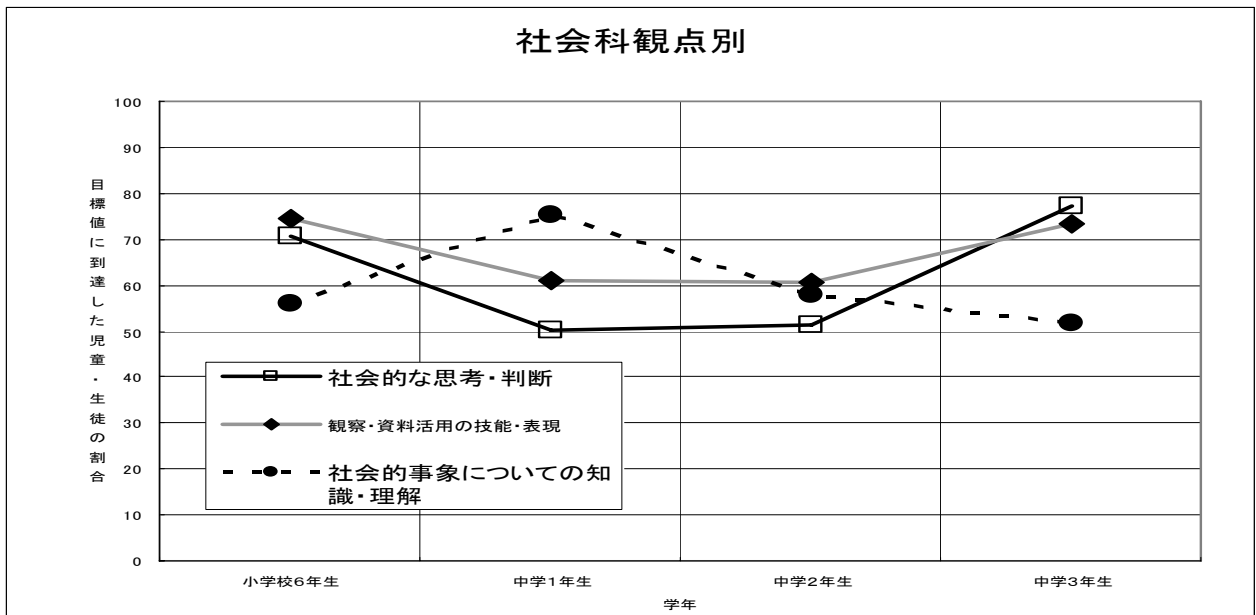
- ☆ 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、「おおむね満足である状況」を示す数値（目標値）をあらかじめ目標として設置し、この目標値に到達した児童・生徒の割合（通過率）を表している。

〔国語〕



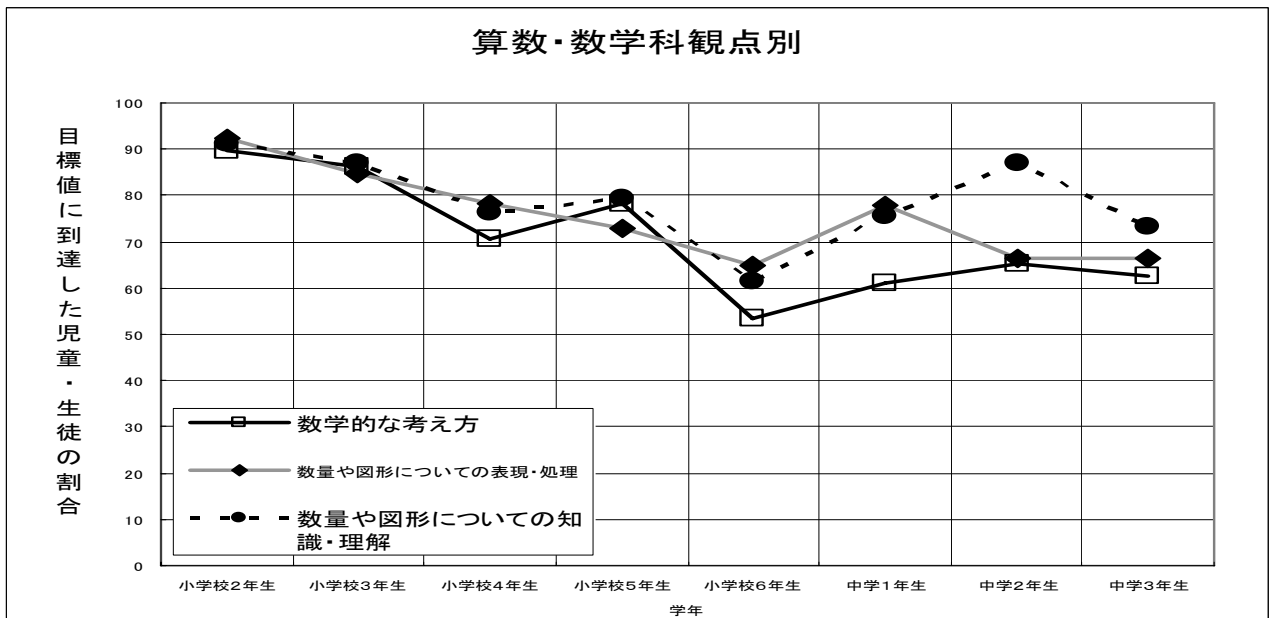
- 「書く力」では、小学校5・6年生、中学校2年生（小学校4・5年生、中学校1年生の内容）以外の5学年において、目標値に達した児童・生徒の割合が70%を下回っている。

[社会]



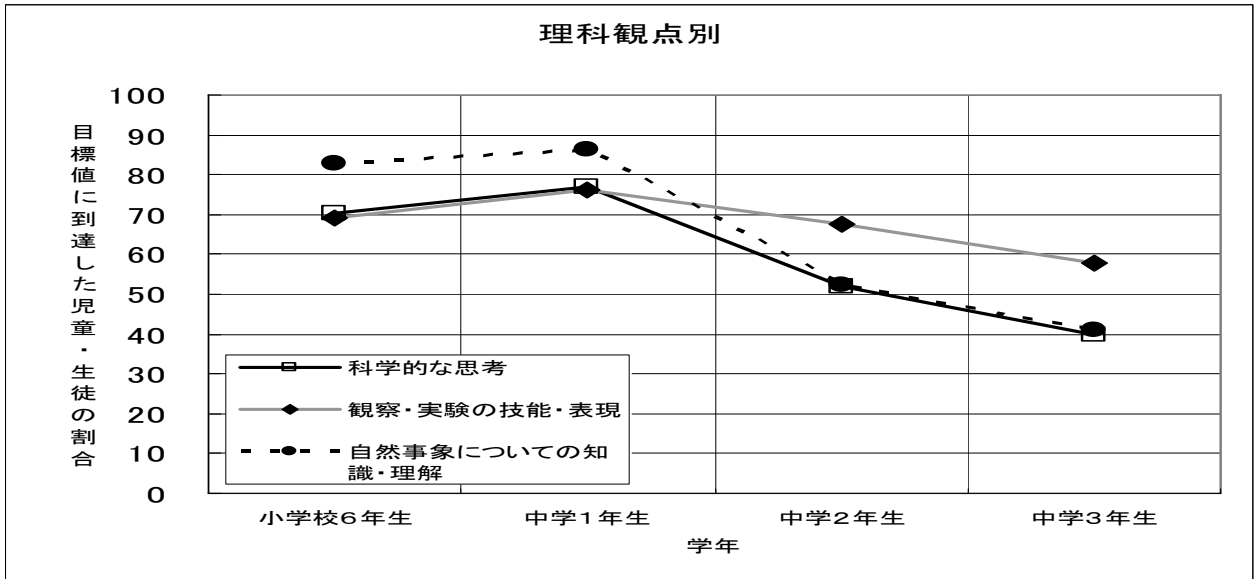
- 中学校2年生（中学校1年生の内容）のすべての観点において、目標値に達した児童・生徒の割合が70%に達しなかった。
- 社会的事象についての知識・理解の通過率が低いことから、主に、小学校で行われている調べ学習など、体験的な学習が学習内容の定着につながっていないことが考えられる。

[算数・数学]



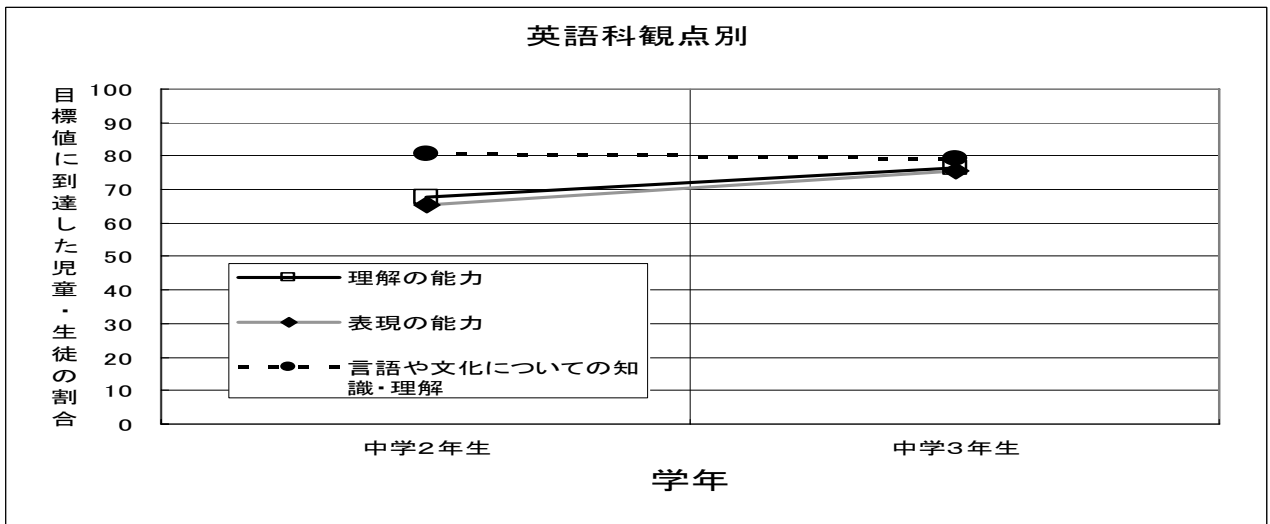
- 小学校6年生時の結果（小学校5年生の内容）と中学校2年生時の結果（中学校1年生の内容）について習得について課題があると捉えている。
- 「数量や図形についての知識・理解」について、中学校3年生時の達成率が低い。

[理科]



- 中学校2年生（中学校1年生の内容）になると、目標に到達する生徒の割合が減少するという傾向が顕著になった。

[英語]



- 「リスニング」に関しては、2年生では良好であるが、3年生においては長いセンテンスを聞き取る問題での正答率が低くなっている。
- 「文法・表現・英作文」に関する設問においては正答率が低くなっている。

[全体的傾向]

- 算数・数学では、小学校6年生の、すべての領域において通過率が70%を下回っている。これは、小学校5年生の学習内容が定着していないことを示している。小学校5年生は、「小数の割り算」や「比例」「割合」など、抽象的な思考

を必要とする学習内容が多くなる学年であり、こうした内容についての学習方法や指導法に課題がある。

- 社会や理科では、中学校 2 年生のすべての領域において通過率が 70%を下回っている。これは、中学校 1 年生の学習内容が定着していない。
- 学力調査の結果から、教科によって違いはあるものの、小学校 5・6 年、中学校 1・2 年で落ち込みが顕著に表れている。
- 通塾率は高いものの、家庭における教育への取り組みが不足している。

【社会規範】

- 学校において、授業規律や校則を守れない児童・生徒がおり、社会の一員としての自覚や態度を育てる必要がある。
- 近年、子どもたちの間にも携帯電話やインターネット利用が急速に普及し、犯罪や事件に巻き込まれるケースが増え、社会的な問題になっている。

【学習意欲等】

- 子どもたちの学習意欲や学習習慣は国際的に見ても低い。将来への目的をもたせるとともに、自ら学ぼうとする意欲を喚起することが課題である。
- 小学校から中学校への接続の中で表れる生活面や学習面の課題（いわゆる中一ギャップ）や、幼児期から小学校入学時の不適応（いわゆる小 1 プロブレム）等により、不登校や学校生活に適応できなくなってしまう児童生徒もいる。

【人間関係】

- いじめや不登校、人間関係をうまく築くことができないなど、教育相談を必要とするケースが増加している。

【生活習慣】

- 学年が進行するにつれて、平均睡眠時間が急激に減少していることや、テレビの視聴時間が経年比較で増加していることなど、家庭での生活習慣に課題がある。
- 子どもたちを取り巻く食の環境の変化に伴い、食に対する意識や理解が薄れ健全な食生活が失われつつある。その結果、小児の生活習慣病やメタボリックシンドロームなどが問題となっている。

3. 異校種間の連携の現状

【保幼小連携】

- 保幼小連絡協議会や小中連絡協議会を開催し教員相互の交流や、学校がそれぞれに小中学校間の連携交流事業を行っているが、単発的な事業や行事に留まっており、継続した取り組みには至っていない。また、区全体として連携のしくみが不十分である。
- 保育園、幼稚園（公立・私立）と小学校では、区を 4 つのブロックに分け、1 週間程度の参観を実施した後に、ブロックごとに連絡協議会を年 1 回開催している。
- 生活科では、幼稚園教育研究会と小学校教育研究会の合同研究を実施している。

【小中連携】

- 中学校区に属する小学校と中学校の教員が年毎に順番で学校を訪問し、授業を参観したり連絡協議会を年 1 回開催して教育課題について話し合ったり、情報交換を行っている。
- 理科では、小学校教育研究会と中学校教育研究会の合同研修を実施している。

- 体力向上委員会による小中学校9年間の体育科・保健体育科指導計画を作成している。
- 教育マイスター(※)研修において、小中学校相互授業研究参加(算数・数学、音楽)に取り組んでいる。
- 各学校の実態に合わせ、中学校生徒会による小学生対象のガイダンスや小学生の体験入学・部活動体験、小学校6年担任と中学校教員の児童に関する情報交換会や合同研修会、中学校教員による小学校での授業などに取り組んでいる学校もある。
- ※ 教育マイスター；高い指導力と専門知識・技能を持った教員を学校長の推薦にもとづき、教育委員会が教育マイスター(認定講師)として認定する。

【保幼小中高連携】

- 幼稚園における中学生・高校生の保育体験、小学校授業への保育園児・幼稚園児を招待しての合同活動などに取り組んでいる学校もある。また、幼稚園から近隣の中学校又は高等学校へ出向き交流活動を実施し、「いのちの教育」「他者への思いやりの醸成」に効果を上げている。

4. 地域との連携

- 子ども家庭部において、中学校区を単位とする地区懇談会を設置し、対象エリアの子どもや家庭をめぐる地域の課題や家庭・地域・学校の連携に関する課題の解決に向けた協議、地域活動の促進と連携強化をすすめるとともに、子どもと家庭を支えるネットワーク化に取り組んでいる。
- 中学校では、地域の協力により職場体験や職場訪問等を行っている。
- 町会による通学の見守りなどを行っている。
- 中学校では、部活動に卒業生や地域の方が指導を行っている。
- 地域でのお祭りなどの行事には、地域の子どもたちが参加し交流を行っている。

II 社会状況等の変化

1. 教育基本法の改正や新学習指導要領の制定など

- 教育基本法の改定では、義務教育、学校教育及び社会教育等に加え、大学、私立学校、家庭教育、幼児期の教育並びに学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力について新たに規定した。
- 教育振興基本計画では、義務教育修了までにすべての子どもに自立して社会で生きていく基礎を育てること。また、社会を支え発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることを目指すべき教育の姿とした。
- 新学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむという理念を実現するため、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、確かな学力を確立するために必要な時間の確保、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実などを視点を改訂がされた。
- 東京都教育ビジョン(第2次)では、家庭や地域の教育力向上を支援する、教育の質の向上・教育環境の整備を推進する、子供・若者の未来を応援するという3つを施策展開の視点とした推進計画が策定された。

2 未来を切り拓く力を育む教育

中野区が目指す人間像

【教育理念】

「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

- ◆ 子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの「生きる力」を身につけている
- ◆ 一人ひとりが自立し、社会の一員として、生きがいをもって生活をしている

【目指す人間像】

1. 生命を尊重し、やさしさや思いやりの心をもつ人
2. コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係をつくる人
3. 自ら考え、創意工夫し課題を解決する人
4. 自らの健康や体力の増進を図る人

(「中野区教育ビジョン」 平成17年策定より)

中野の教育

【家庭】

子育てに責任をもち、豊かな体験と愛情の中で生活習慣や規範意識などを身につけさせ、心の居場所となっている

【学校】

生涯をとおして学ぶための基礎となる「生きる力」を育み、家庭や地域との連携により、地域コミュニティの核としての機能を果たしている

【教育理念と目指す人間像】

「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

- ◆子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの「生きる力」を身につけている
 - ◆一人ひとりが自立し、社会の一員として、生きがいをもって生活している
- ◆生命を尊重し、やさしさや思いやりの心をもつ人
 - ◆コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係をつくる人
 - ◆自ら考え、創意工夫し課題を解決する人
 - ◆自らの健康や体力の増進を図る人

身近な環境の中で個人の成長が育まれる幼児期

集団の中で自立の基礎を培う学齢期

社会の中で自己実現を図る区民

【地域】

行事や体験をとおし、子どもたちを育むとともに、一人ひとりが主体的に学び、個性や能力を生かし、お互いが支え高め合っている

【 目 標 】

幼児期

I 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている

学齢期

II 地域が誇れる魅力ある学校づくりが進み、子どもたちは生き生きと学んでいる

III 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、基礎・基本を身につけ、個性や可能性を伸ばしている

IV 子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている

V 人権尊重の理念が広く社会に定着し、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている

生涯を通じて

VI 地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をとおしての社会参加が進んでいる

VII 子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高めている

VIII 主体的な教育行政が行われ、充実した教育環境の中で学ぶことができる

共 通 の 基 盤 整 備

3 これからの中野の教育

I これからの中野の教育に求められること

1. 学力の向上

- 「学力にかかわる調査」などからみえる学年・教科ごとの課題を解決するため、義務教育9年間を通した一貫カリキュラム（指導計画）を策定しそれに基づく指導により、各学年でのつまずきを無くし、学習内容の確実な定着を図る。
- 小学校5・6年生では、教科担任制の導入などにより小学校から中学校への円滑な移行を図る。
- 少人数指導や習熟度別学習など、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導をより一層充実する必要がある。
- 自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけさせる必要がある。
- 学習に対する取り組みについて、学校間格差などが生じないような対応が必要である。
- 教員の授業力の向上、人材確保、研修体系の確立等、教員の指導力の向上が求められている。
- 家庭学習を定着させるための取り組みが必要である。

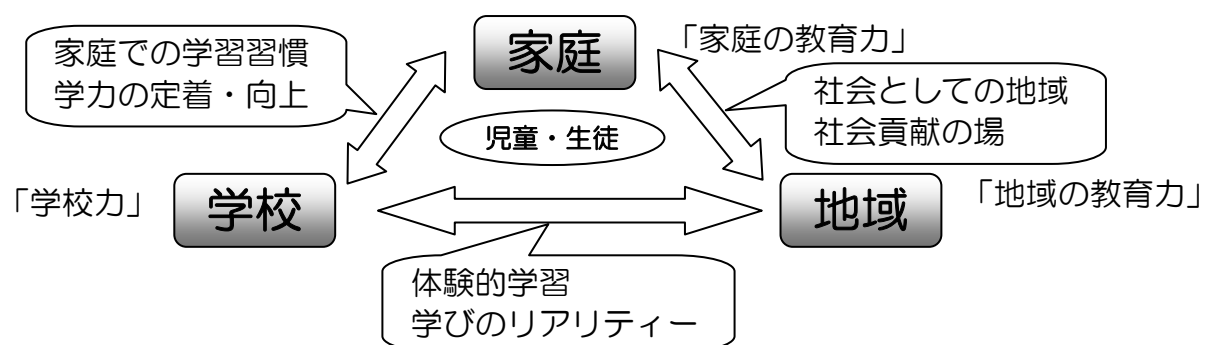
2. 学校生活への不適応児童生徒の解消等

- 安心して子どもを育てられる教育環境の提供が必要である。
- 保育園や幼稚園から小学校への接続について、子どもたちが生活の変化に適応しやすい環境を図る。
- 小学校から中学校への移行によって生じる心理的負担を軽減し、ゆとりある安定した生活を送れる環境が必要である。
- 家庭、地域、学校が連携し、子どもに多様な体験、交流及び仲間づくりや子どもの健全な育成ができる子どもの安全な場の提供が必要である。

3. 豊かな人間性や社会性の育成

- 豊かな人間性や社会性を育むことにより、社会の一員として生きていくための規範意識を持てるような指導が必要である。
- 生命や人権を尊重し、コミュニケーション能力を高める教育が求められている。
- 義務教育終了時において、確かな職業観・勤労観を持ち将来に向けた生きる力をつけてさせていく必要がある。

【「学校・家庭・地域」三位一体による学力向上】



Ⅱ 中野区における連携教育

1. 一貫教育構想

【目的】

- 学力・体力向上が求められており、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに幼児期から小学校、小学校から中学校への円滑な接続を目指す。
- 規範意識の醸成し、社会の一員としての自覚や態度を育て、国家・公共に貢献する意欲、やさしさ、思いやりの心などをもつ人を育てる。
- 将来、自立した生活を営んでいけるよう生きる力をはぐくみ、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動することでよりよく問題を解決する資質や能力を身につけさせる。

【取り組みの方向性】

- 保育園・幼稚園、小学校、中学校の校種の違いを超えて、発達や学びの連続性を大切にした教育活動を推進する。
- これまでの異校種間の自主的な連携の取り組みを尊重し、地域の実情等を踏まえた一貫教育を実現する。
- 保育園・幼稚園、小学校、中学校の一貫教育を核として、地域・家庭との連携を強化し、地域全体で学校教育の充実を図る。

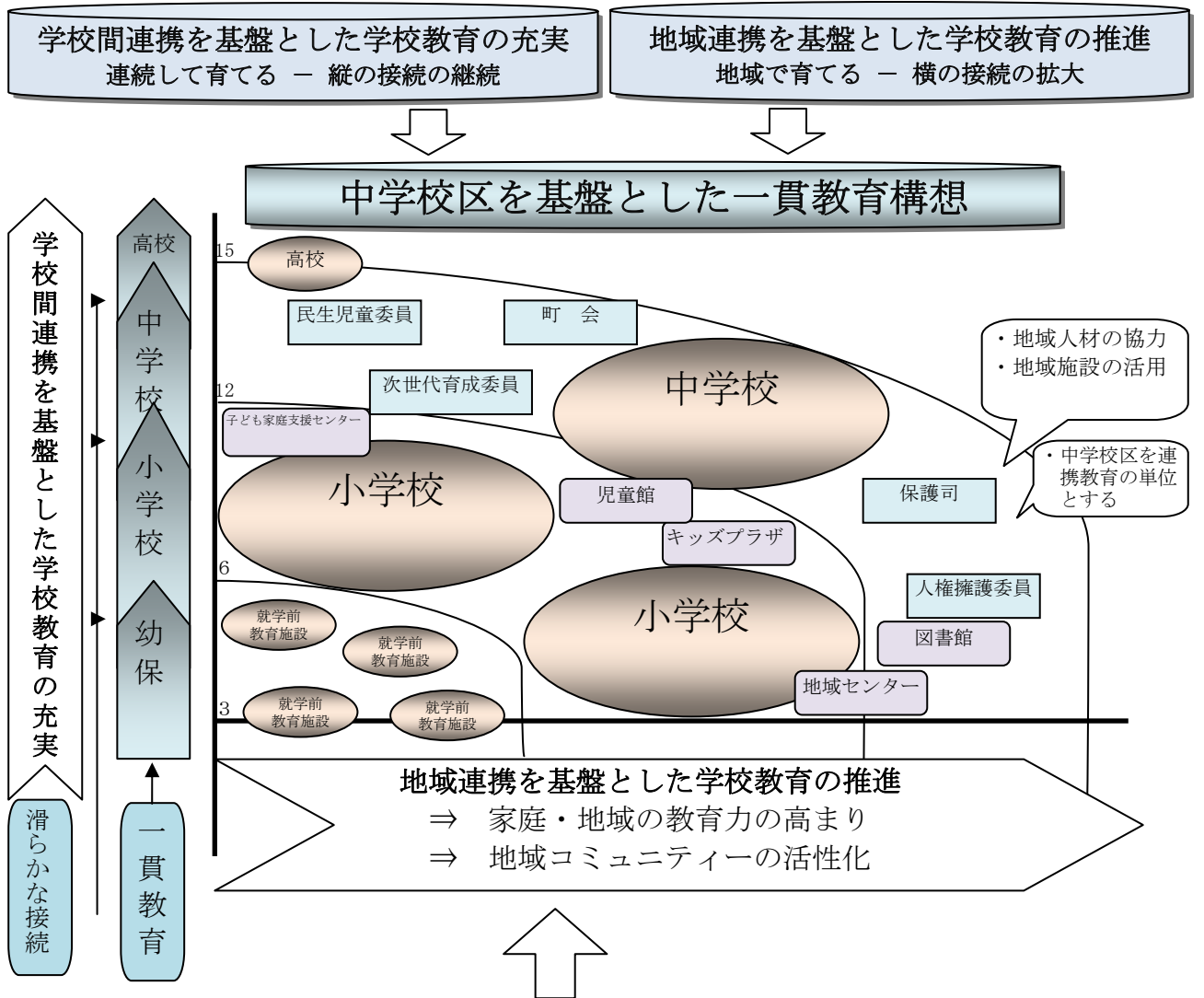
【取り組み内容】

<学校間連携を基盤とした学校教育の充実>

- 中学校区を単位とした保育園・幼稚園、小学校、中学校を一つのグループとして、区内全校で学校間連携を図る。
- 区内全校で取り組める9年間の一貫したカリキュラムを策定する。
- 子ども関連施設や保健・福祉などとの連携を図っていくため、地域の子育てコミュニティの拠点となる地域子ども家庭支援センターを中心に現行の4ブロックを単位として、子どもたちの発達段階に応じた一人ひとりにきめ細かな指導等を行っていくとともに、学校間連携にも取り組む。

- グループ・ブロックごとの取り組み
 - ・ 保育士・教員の交流・出前授業などによる一貫教育に向けた相互理解
 - ・ 教員の合同研修の実施
 - ・ 連携を強化するための懇談会の実施
 - ・ 心の教育や生活指導と関連付けた生き方の指導
 - ・ 幼児期からの子どもの情報の共有化
 - ・ 地域の特性にあわせた交流事業や活動などの実施

【一貫教育構想のイメージ】



学校支援のしくみ	例；担当指導主事／地域担当者
	① 学校間連携調整 (出前授業、交流行事)
	② 学校地域連携 (学校支援ボランティア調整、子育て支援施設(団体)と学校との連携)
	③ 地域に信頼される学校づくり (学校評価／地域ごとの教員研修)
	④ 地域活動支援 (パトロール、相談、生徒指導、児童・生徒の地域生活支援)

4 地域子ども家庭支援センター／次世代育成委員／地域団体
／関係機関・施設

地域

2. 保育園・幼稚園と小学校の連携

◆ 保育園・幼稚園から小学校への円滑な接続

- ・ 学校行事等を通じた交流
学習発表会（学芸会）、運動会、校外学習、児童集会等、小学校の行事に保育園・幼稚園の園児の参加を積極的に働きかける。また、行事参加にあたり、可能な限り準備段階からの参加などにより子ども同士の交流を図る。
- ・ 小学校教員の保育園・幼稚園への参観・保育体験研修の実施
保育園・幼稚園から小学校への子どもの円滑な接続を図るため、小学校教員が保育園・幼稚園に行って園児の遊びの姿や保育士の支援のあり方等を学び、それぞれの教育がつながっていることを理解し、小学校での支援に生かす機会とする。
- ・ 保幼小教育連携研修会の実施
保育園、幼稚園、小学校の教職員を対象に実践に基づいた保育や教育の研究発表を通して相互理解を深め、より充実した教育連携を図ることを目的に実施する。
- ・ 生活科を通じた交流
生活科校外学習など生活科において、体験や具体的な学習活動を通し、1年間を通じた活動計画を策定して児童と園児との交流の場を設ける。

◆ 子どもの情報の共有化

- ・ 保幼小連絡協議会の機能強化
ブロックごとに設置している保幼小連絡協議会の機能を強化し、子どもの情報交換や相互の要望などを出し合うとともに、幼児教育と学校教育の充実及び連携の推進、交流事業の実施などについて協議する場とする。

3. 小学校と中学校の連携

◆ 学力向上への取り組み

- ・ 一貫カリキュラムの策定
9年間の一貫したカリキュラムの策定による子どもたちの学習意欲の向上、学力の定着を図る。
- ・ 中野区独自の副読本の作成
教員の指導手引書となり、家庭教育にも活用できる中野区独自の副読本の作成・配付

◆ 学校生活への不応児児童生徒の解消等

- ・ 「生きる力」の醸成
9年間を通して、子どもの多様な資質や能力を伸ばす系統的・継続的な学習、心の教育や生活指導と関連付けた生き方の指導を図る。

◆ 小学校から中学校への円滑な接続

- ・ 小学校での教科担任制の導入
小学校から中学校への円滑な移行を図るため、中学校教員の出前授業や小学校5・6年生を対象にした教科担任制による授業の導入

- ◆ 豊かな人間性や社会性の育成
 - ・ 行動連携の推進
 - 一斉地域清掃、地域挨拶運動など行動連携を図る。また、発達段階に即した指導による自己形成を図る。
- ◆ 子どもの情報の共有化
 - ・ 小中連絡協議会の機能強化
 - 小中連絡協議会の機能を強化し、子どもの情報交換や相互の要望などを出し合うとともに、学校教育の充実及び連携の推進、交流事業の実施などについて協議する場とする。

Ⅲ 学校と地域との連携

1. 地域との連携を生かした学校

<地域連携を基盤とした学校教育の推進>

- ◆ 学校支援のしくみの整備
- ◆ 学校支援ボランティアの活用
 - ・ コーディネーターの配置による地域の人材活用や連携の強化を図る。
- ◆ 学校で得た知識や学んだことが生かせるような地域との連携
 - ・ 社会規範など時代を超えて守るべき価値や実践力を身に付ける。

2. 地域コミュニティの核

- ◆ 地域に信頼される学校づくり
- ◆ 子育て支援施設（団体）との連携の強化
- ◆ パトロール、相談、生徒指導など、児童生徒の地域活動の支援
 - ・ 一斉地域清掃、地域挨拶運動など行動連携
 - ・ 地域行事などへの参加による地域の伝統・文化の継承

3. 子どもの健全育成の場

- ◆ 全小学校へのキッズプラザの導入
 - ・ 家庭、地域、学校が連携し、子どもに多様な体験、交流及び仲間づくりや子どもの健全な育成を図る。
- ◆ 地区懇談会の活用
 - ・ 地区懇談会を活用した地域の子どもの健全育成に向けた協議

Ⅳ 実施に向けた方策

1. 「小中一貫教育」の推進に向けて

- ◆ 教職員間における相互理解の醸成
 - ・ 教職員の相互理解を醸成するための合同研修や懇談会、出前授業などの計画的な取り組み
- ◆ 小中学校の一貫カリキュラムの策定
 - ・ 9年間の一貫したカリキュラムを策定するための体制を整備するとともに、子どもたちの学習意欲の向上、学力の定着が図れ、全小中学校で取り組めるカリキュラムの策定
 - ・ 一貫したカリキュラムの実施に向けた教員の配置計画の策定
 - ・ 施設一体型小中一貫教育学校の設置に向けた課題等の整理

- ◆ 学校行事、連合行事の再構築
 - ・ ブロックにおける学校間の連携を図るため、学校行事や連合行事の再構築
- ◆ 各ブロックにおける教育目標等の策定
 - ・ 各学校における教育目標を尊重するとともに、各地域の特色を生かしたブロックごとの目標や取り組み内容の策定

2. 学校と地域との連携の推進に向けて

- ◆ 学校支援ボランティアや地域の人材活用
 - ・ 学校支援ボランティアや地域の人材を活用するため、学校と地域の知識や技術を持っている方とを結びつけるコーディネーターの配置
- ◆ 地域における体験学習や交流事業等の実施
 - ・ 地域との連携を強化し、学校で得た知識や学んだことが生かせるような関係を構築するための取り組みの検討
- ◆ 各ブロックにおける地域行事等への参加
 - ・ 地域行事等への参加をより積極的に行うため、地域との情報交換の場の設置
- ◆ 学校・地域の関係部署との連携
 - ・ 学校・地域との連携が円滑に図れるよう、関係部署との調整や連携の強化（児童館、キッズプラザ、次世代育成委員、民生児童委員）

4 新たな取り組みの提案

1. 中野ミニマムスタンダードの策定

- 「どの学校でも、だれでも指導する基準」として策定
- その学年で身につけるべき基礎的内容を確実に指導
- 身に付いていることの確認システム（「検定」等）の確立
- 学びのスキルの一般化と学年指導内容の検討

2. 教員の授業力向上

- 互いに学ぶ学校組織
- 異校種から学ぶ教員
- 授業力の評価規準、評価方法の検討

3. 家庭・地域の教育力の向上

- 家庭への啓発（⇒教育基本法）
 - ・家庭での学習習慣を確立するため、「家庭学習のてびき」を作成
- 児童・生徒が学校で習得した学習内容を実践する場としての地域環境